

再 評 価 書

箇所名	一級河川五十鈴川	事業名	河川事業	課 名	河川課
事業概要	工 期	平成 29 年～令和 28 年	全体事業費	5,664 百万円(負担率：国：0.5 県：0.5)	
	(下段当初) ^{*1}	平成 29 年～令和 28 年	(下段当初) ^{*1}	5,664 百万円(負担率：国：0.5 県：0.5)	
事 業 目 的 及 び 内 容					
<p>1 事業の目的</p> <p>五十鈴川は、伊勢市（人口約 12 万人、県内第 6 位）を流れる一級河川であり、沿川には伊勢神宮・派川沿川には県営サンアリーナ等があるとともに、伊勢神宮周辺には豊かな自然環境も残っています。</p> <p>本流域では平成 13 年 8 月に 5 戸、平成 3 年 9 月に 181 戸の家屋の浸水被害が発生しています。</p> <p>本事業は、五十鈴川沿川の人命や資産を洪水による浸水被害から守ることを目的に実施されているもので、掘削工及び築堤護岸工等の改修によって流下能力を増大させ、治水安全度の向上を図る事を目的としています。</p> <p>2 実施の内容</p> <p>事業の内容は、次のとおりです。</p> <p>全体延長：3,600m</p> <p>① 築堤工 V=5,120m³、②掘削工 V=49,800m³、③護岸工 L=7,040m、④橋梁 N=2 橋、⑤堰 N=1 基</p>					
事 業 主 体 の 再 評 価 結 果					
<p>1 再評価を行った理由</p> <p>平成 29 年に再評価を実施後、一定期間（5 年）が経過している事業であるため、三重県公共事業再評価実施要綱第 2 条(3)に基づき再評価を行いました。</p> <p>2 事業の進捗状況と今後の見込み</p> <p>・事業の進捗状況</p> <p>① 昭和 24 年度 河川改修事業着手 ② 昭和 38 年度 河川改修全体計画策定 ③ 平成 19 年度 河川整備基本方針策定（国） ④ 平成 28 年度 河川整備計画策定</p> <p>令和 4 年度までに事業費ベースで 10%完了予定</p> <p>・今後の見込み</p> <p>令和 28 年度の事業完成を目標としています。</p> <p>3 事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <p>流域には国道 23 号・国道 42 号・JR 参宮線・近鉄鳥羽線等のこの地方の根幹をなす交通網の拠点があるなど、伊勢市を中心とした地域の社会・経済・文化の基盤をなしています。</p> <p>県管理区間上流には伊勢神宮があり、周辺には豊かな自然環境が残っています。伊勢神宮には、数々の重要な文化財が存在するほか、昔の街並みを再現したおかげ横丁が隣接しており、毎年多くの観光客が訪れています。</p> <p>このような状況から、河川事業の必要性は非常に高い状況です。</p> <p>〔関連事業〕</p> <p>主要地方道鳥羽松阪線（楠部拡幅）道路改良事業…五十鈴川（楠部工区）付近では、道路の安全性の向上を図るため、幅員の狭小な区間に対して道路改良事業を行っており、平成 27 年度までに五十鈴川に架かる五十鈴橋の橋梁改築を完了しています。</p>					

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

4-1 費用対効果分析

① 前回評価時の費用対効果分析の結果 ※2

費用便益比 (総便益/総費用) 全体事業 B/C = 43,724 百万円/5,424 百万円 = 8.06

② 費用対効果分析の結果 ※3 (R2 治水経済調査マニュアル (案) により検討)

費用便益比 (総便益/総費用) 全体事業 B/C = 24,339 百万円/3,976 百万円 = 6.12

費用便益比 (総便益/総費用) 残事業 B/C = 8,975 百万円/3,321 百万円 = 2.70

※総便益 B = 年便益の総和 (現在価値化) + 残存価値 (現在価値化)

※総費用 C = 事業費 (現在価値化) + 維持管理費 (事業費の 0.5%、現在価値化)

総便益・総費用の現在価値化にあたっては、社会的割引率によって算出するものとし、過去の費用については、デフレーター補正を併せて実施しています。

費用便益分析結果

(単位: 百万円)

区分	当初評価時 (H29 年度)	今回評価時 (R4 年度)		備考	
	全体事業	全体事業	残事業		
費用	事業費	4,003	3,566	2,980	河川改修事業費
	維持管理費	1,421	410	340	事業費の 0.5%
	総費用	5,424	3,976	3,321	
効果	年平均被害軽減期待額	2,715	1,546	613	
	便益	43,434	24,275	8,897	施設整備による浸水被害軽減効果
	残存価値	290	64	77	完成 50 年後の施設の残存価値
	総便益	43,724	24,339	8,975	便益+残存価値
費用便益分析結果 (B/C)		8.06	6.12	2.70	

【B/C 変化の要因】

地盤高データを最新のデータに更新し、評価メッシュを細分化したことにより氾濫範囲、浸水深が減少したことや、近年の事業実績を基に維持管理費を精査した結果、費用便益比 (B/C) が減少する結果となりました。

③ 感度分析の結果 ※4

残事業・残工期・資産額をそれぞれ±10%変動させた場合の感度分析を実施した結果、いずれの場合でも本事業の経済性が確認される結果となりました。

	全体事業 B/C	残事業 B/C
残事業費 (+10%~-10%)	5.62~6.73	2.46~3.00
残工期 (-10%~+10%)	6.10~6.14	2.69~2.71
資産額 (-10%~+10%)	5.56~6.71	2.46~2.96

4-2 その他の効果

- ・伊勢神宮は神社本庁の本宗とされていることもあって、建物のほかにも、国宝・重要文化財等が多数所有されています。河川整備によって、これら文化財に対する被害を防止することが出来ます。
- ・鉄道 (JR、近鉄) や国道、県道にかかる橋梁など、三重県を南北に結ぶ重要な交通網が横断しており、これらの安全を確保することに役立ちます。
- ・河川周辺には、伊勢市に指定されている避難所が存在することから、これらの安全を確保することが可能となります。

(環境への配慮)

環境への配慮として護岸工法は、水生生物の生息環境に配慮し、多孔質な構造とするとともに、覆土を行うなどして水際の植生を保全します。河道掘削に際しては、現状のみお筋を極力保全することとし、やむなく掘削する場合には、現状のみお筋が再生されるように掘削形状を工夫します。

4-3 地元意向

官川水系治水事業促進期成同盟会等から、河川改修の早期完成を求める要望があります。

<p>5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性</p> <p>5-1 コスト縮減</p> <p>① 河道掘削等による発生土を築堤の盛土材や他の公共事業に流用し、有効利用することで、建設副産物の発生を抑制しコスト縮減に努めます</p> <p>② 護岸の構造や工法選定の際には適宜経済比較等を行い、コスト縮減に努めます。</p> <p>5-2 代替案</p> <p>河川の改修計画の手法に対する代替案には、『ダム案』、『遊水地案』などがあります。これらに関する対応は次のとおりです。過去から河川改修を進めてきた実績もあることから、河道改修が妥当と考えています。</p> <p>① 『ダム案』 流域の大部分が平地であり、ダムの適地はありません。</p> <p>② 『遊水地案』 遊水地による洪水調節では広大な敷地が必要となります。このため沿川に広がる広大な農地を犠牲にすることになり、設置が困難です。</p>
<p>再 評 価 の 経 緯</p>
<p>平成 29 年度の再評価においては、河川整備計画について報告しております。</p>
<p>事 業 主 体 の 対 応 方 針</p>
<p>三重県公共事業再評価実施要綱第 3 条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第 5 条 1 項に該当すると判断されるため当事業を継続したいと考えています。</p>

- ※1 再評価実施事業は(下段前回)とし、前回評価時の内容を記載する。未実施の場合は(下段当初)とし、当初計画時の内容を記載する。
- ※2 再評価実施事業は、前回評価時の内容を記載する。未実施の場合は、当初計画時の内容を記載する。
- ※3 当該事業を所管する省庁の費用便益分析手法に従い費用対効果分析の結果を記載する。
- ※4 当該事業を所管する省庁の費用便益分析手法に従い感度分析の結果を記載する。